

令和3年度 墨田区立曳舟幼稚園 経営報告書

令和4年3月10日

幼稚園目標	・健康で明るい子供 ・思いやりのあるやさしい子供 ・進んで取り組みやりとげる子供
目指す幼稚園像	・地域に愛され、地域と共に歩み、広く保護者・地域と連携した幼稚園
目指す園児像	・げんきな子 ・やさしい子 ・すすんで取り組む子
目指す教師像	・聞いてあげる教師 ・体験させる教師 ・思いを受けとめる教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
保育活動等	園は、子供の主体的な活動を促す教育の実施に務めているか。	A	・飼育や動物との触れ合い行事、植物栽培など生き物との関わりを通して、幼児が命や環境について自ら考える機会を持つことができた。幼児が行事や日常活動などの役割を月1回以上果たせるよう取り組んだ。今後も継続していく。	A	A
	園は、特別な支援を必要とする幼児に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	A	・特別支援学校コーディネーターや療育施設職員による巡回相談、個別指導計画等を活用し、担任・介助員、保護者との連携を図った。目標進捗状況85%を達成しており今後も継続していく。	A	A
	園は、幼児の将来の自立に向けた保育活動・相談活動に取り組んでいるか。	B	・幼稚園評価でA評価90%を達成できていない。基本的な生活習慣、自ら考える、友達と協力し合う等の経験を重ねていけるようにする。保護者との面談の中で、保育方針の共通認識を図る。	B	A
	園は、教員の指導力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	A	・研究主題「自ら環境にかかわり遊びこむ幼児を育てる」を85%以上達成できたと考える。園内研究の充実に向けて、月1回園内研究会や研究保育を行う。参加者からの評価・助言を基に、指導方法の反省や改善に取り組む。中堅教諭が若手教諭に指導助言を行い、若手教諭の指導力向上を図るとともに、中堅教諭の振り返りを行う。	A	A
	体力の向上	B	・毎日1回は体を動かす遊びに取り組むとともに外部講師による運動教室を実施し、「遊ぶ」ことを楽しみながら体力を向上させる指導の工夫を行った。屋外遊具が使用できず不十分な面があったため、全身機能や握力を高める遊びを工夫していく必要がある。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも遊びや製作、自然活動の中で精一杯取り組む姿勢を培っていただきたい。</li> <li>・様々な制限がある中、できる活動を工夫しているのが分かる。</li> <li>・コロナ禍における制限により体を動かすことができなくなり、子供たちの体力減少が心配される。</li> <li>・4・5歳に合った工夫をお願いします。</li> <li>・工事のため校庭使用に大きな制限がかかり、体育・集団遊び・自由遊び・行事等に影響が出たものと思う。</li> <li>・資料の「ICT機器を活用した小学校児童との交流」未実施。</li> </ul>		

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	園は、幼児の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	B	・幼稚園評価でA評価90%を達成できていない。保育記録を残し、保護者への相談や報告を緊密に行って保育方針の共有を図る。幼児の成長の機会であることを認識し、言葉掛け等の支援を通して自分の力で解決していく経験をさせる。	B	B
	園は、幼児が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園評価でA評価90%を達成できていない。幼保小中一貫教育で使用している生活リズムカードを活用し、年間3回実態把握と評価を行う。評価結果を基に不足している習慣を補う取り組みを行い、基本的な生活習慣の定着を図る。異学年交流ができないため、学級の中で日々の幼児同士の関わりを通じて相手を思いやる行動や友達との上手な関わり方を指導する。</li> <li>・絵本タイムを月1回以上実施し、読み聞かせに親しむ時間を確保する。読み手とのコミュニケーション（目と目で通じるなど言葉の有無を問わない）を含め、絵本の世界を共有する時間を通して情緒の安定を図る。</li> </ul>	B	A

様式3

	園は、幼児の安全を確保するための取組を行っているか。	A	・幼稚園評価でA評価 90%を達成している。毎月の安全点検に加え、幼児の降園後に毎日、保育室の点検を行い、園内でのけがや事故の予防を行う。職員間で遊具の使い方について共通理解を図り幼児が安全に利用できるようにする。安全教育プログラムを活用した研修会を年間3回行い職員の意欲を高める。	A	A
	園は、幼児や保護者からの意見や要望を把握し、保育活動の点検や改善に役立っているか。	B	・幼稚園評価でA評価 90%を達成できていない。登園時や保護者会などのほか、日常的に保護者とのコミュニケーションを図る機会を確保する。職員間での要望の共有、検討、改善策の策定を行い、幼児や保護者が求める保育と園が提供する保育の整合性がとれるようにする。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等		・保護者が求める保育とは何か。 ・工事下で保育教育活動を安全に行うには、職員の良い関係が不可欠である。それを達成している。事故がなかった。		

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
園の管理運営	園は、管理職の経営方針に基づいた、組織的な教育活動・園運営を行っているか。	B	・自己申告を活用して職員と経営方針の共有を図り、具現化のための具体的な目標を設定させる。会計年度任用職員（学校支援指導員や介助補助員等の非常勤職員）と年間1回以上の面談を実施して職務内容等の確認を行い、全職員による共通理解を図る。	B	A
	園は、幼児の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を行っているか。	B	・幼稚園評価でA評価 90%を達成できていない。「げんきにやさしくすんで」を合言葉に、幼児の実態に合わせて活動内容を見直し、達成する満足感を味わえるようにする。	B	A
	園には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	A	・毎月、職員による安全点検を行い、改善点は迅速に着手する。施設・設備の定期点検と整備を行い、規模が大きいものは区教委との連携を図る。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等		・コロナ禍の中、いろいろなことが制限されている中で全てのことに達成する喜びを味わうことは難しい。 ・難しい環境だが頑張っしてほしい。 ・人事管理は適切に行われていると思っている。		

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	園は、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	B	・幼稚園評価でA評価 95%を達成できていない。園だよりや学級だより等の他、写真やホームページで活動の様子をより伝えられるようにする。ホームページの充実が課題であり、月に数回更新できるよう計画を立てる。一日の保育の様子を、降園時にこまめに保護者に伝えるとともに、保護者の会と連携し、写真や原稿の提供など広報誌への協力をを行う。	B	B
	園は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	B	・幼稚園評価でA評価 90%を達成できていない。コロナ禍でも新たな視点で工夫しながら、保護者の会や地域の力をお借りして様々な親子行事や地域参加型の行事を計画する。	B	A
	幼保小中一貫教育の充実	B	・保育園や小学校との交流行事が少なかった。併設園の良さを生かし、工夫して曳舟小学校との交流行事を行い、小学校への滑らかな接続につなげる。保育園の保育参観や小学校の授業参観を行い、相互の指導方法や内容を理解し、滑らかな接続につながるよう保育計画を立てる。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等		・併設園の良さを生かしてほしい。 ・二年間での子供の成長は素晴らしい。先生方ご苦労様です。自信を持ってほしい。 ・園児では園生活を保護者に伝えるのが難しいところがあるため、園からの情報発信をより密にお願いしたい。 ・地域の協力を得ての活動はコロナ禍により著しく制限を受けた。回復を図るにはどうするか考え始めたい。		

様式 3

2 令和3年度学校評価のまとめ

全体としては、昨年度と概ね同様の評価を得ている。

「体力向上」「地域との連携」「小学校との交流」はコロナ禍や工事の影響により評価が低かった項目である。園庭の使用制限による運動不足の解消、地域との連携行事の実施、併設園の良さを生かした小学校との交流について、実施に向けた改善策を検討する必要がある。

また、日常の教育活動の様子を伝える「情報発信」も課題となった項目である。保育参観や行事等、保護者や地域の方に直接見ていただく機会が少ないため、それを補う情報発信の工夫が必要である。ホームページの充実に取り組んでいく。

「教育活動」「安全管理」の項目は、保護者・地域ともに高評価であった。継続して取り組んでいく。

以上の通り報告いたします。

墨田区立曳舟幼稚園 園長 吉岡 大輔

